

令和6年度 陽南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

日本国憲法及び教育基本法、栃木県及び宇都宮市の教育目標、そして児童の実態や社会・地域の要請を受け、人間尊重の教育を基盤とした本校の教育目標を次のように設定する。

（1）基本目標

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。 【自分に自信をもてる子を育てます】

（2）具体目標（具体的な児童像など）

- ・自ら学び、ねばり強く努力する児童（楽しく学ぶ子）
- ・思いやりをもち、助け合う児童（仲よく助け合う子）
- ・健康と安全に留意し、元気に活動する児童（元気に活動する子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

理念

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり



学校像

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）すべての児童の人権を大切に、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることが出来る学校づくりに努める。
- （2）○小中一貫としての義務教育9年間を通した系統的な指導を通して、確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる授業」づくりに努める。
- （3）自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- （4）学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- （5）○「地域とともにある学校」、「地域の学校」として学校・家庭・地域社会が互いに連携し、信頼関係を深めながら教育活動の充実を図り、地域の教育力を高めるとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。
- （6）「業務改善の取組」や「勤務時間を意識した働き方」を一体的に実施する。
「学校における働き方改革アクションプラン」（第2次アクションプラン）
- （7）○陽南地域学校園および小中一貫教育において、地域の特性、児童の実態、地域の願いと将来像を反映し、義務教育9年間の系統的な指導のための積極的な取組により、学校力の向上を図る。

【陽南地域学校園教育ビジョン】 主体的に活動できる子供を育む小中一貫教育
～生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成～

4 教育課程編成の方針

- ・教育基本法・学校教育法・同施行規則の規定ならびに小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」を受け、うつのみやの目指す学校教育・第2次宇都宮市学校教育スタンダードおよび本校の学校教育目標を達成させるための学校経営方針に基づいた教育課程を編成する。
- ・学校教育目標の具現化を図るため、本校の実情、児童の心身の発達段階や特性、地域社会の要望、保護者の願い、更には小中一貫教育の実施を受けて、知・徳・体の調和のとれた、人間力を育む教育の推進を図ることができるよう編成する。
- ・「生きる力」を育成するために創意と工夫を加え、各教科・道徳・外国語活動・特別活動および総合的な学習の時間等の各領域との関連を図り、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けて、調和と統一の取れた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1）学校運営
 - ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
 - 学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。
 - 陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- （2）学習指導
 - 自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成を図る。
- （3）児童生徒指導
 - 基本的生活習慣を身に付け、場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。
- （4）健康（保健安全・食育）・体力
 - 自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価						
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫し、児童同士が自分の思いや考えを伸び伸びと表現し、伝え合えるようにする。 ② 児童が一人一台端末を活用し、必要な情報を得る力を育成できるように、ICT支援員と協力しながら指導に努める。 ③ 児童が見通しをもって主体的に取り組めるような授業展開の工夫や、児童の興味を引き、思考・判断・表現等を促す課題設定の工夫などに努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>89.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.2%</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答率は、ともに指標を上回っている。市全体と比較すると児童生徒ではやや下回っているが、教職員は 3.1 ポイントほど高くなっている。 【次年度の方針】 ・引き続き、①②③の取組を行い、「陽南学習のきまり」を基に基本的な学習習慣を身に付けた上で、学び合いの場を設け、主体的な学びができるよう働き掛ける。また、一人一台端末を活用し、情報収集能力を高めるための指導をしていく。	児童の肯定的回答率	89.3%	教職員の肯定的回答率	96.2%		
	児童の肯定的回答率	89.3%								
	教職員の肯定的回答率	96.2%								
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児 童 95%以上 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 95%以上	① 道徳科の授業と、全教育活動との関連を図り、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心など豊かな心情を育む。 ② 児童会活動や清掃等における異年齢交流活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ・ボランティア感謝の会 ③ 全クラス「きらりコーナー」を活用し、学年間を超えてカードを記入したり、帰りの会で「今日のきらり」を設けたりして、友達のよさを認め合えるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>89.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>95.9%</td></tr></table> ・教職員・保護者の肯定的回答率は指標を上回ったが、児童の肯定的回答率は 6.0 ポイント下回った。しかし、昨年度の結果より 2.3 ポイント上回っている。道徳の授業や学校行事など、様々な場面での指導の成果が図られてきている。 【次年度の方針】 ・引き続き①②③を行い、教職員は思いやりの心をもって優しく接している児童の行動を認め、紹介し、思いやりの心を広げ推進するよう努める。	児童の肯定的回答率	89.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	95.9%
児童の肯定的回答率	89.0%									
教職員の肯定的回答率	100.0%									
保護者の肯定的回答率	95.9%									
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童が主体的に活動したり、活躍したりできる場を数多く設定するとともに、認め励ます指導を心がけ、児童の自己有用感を高めていく。 ② 学校行事や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛したり、頑張っている様子を公開授業や学年だより等で保護者に伝えたりする。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.4%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>88.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>78.4%</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答率はいずれも指標を上回っている。保護者の肯定的回答率は指標を 1.6 ポイント下回ったが、年度より 3.3 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 ・引き続き①②③の取組を行うとともに保護者には、学校公開日等の授業を参観する機会を通して、児童が学ぶ姿から粘り強く取り組む様子を伝えられるようにする。	児童の肯定的回答率	88.4%	教職員の肯定的回答率	88.5%	保護者の肯定的回答率	78.4%
児童の肯定的回答率	88.4%									
教職員の肯定的回答率	88.5%									
保護者の肯定的回答率	78.4%									

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児 童 9 0 %以上 ⇒教職員 8 5 %以上 ⇒保護者 8 5 %以上	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取組をしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。指導に当たっては、市や警察などの関係機関等と連携し、安全に対する意識の向上を図る。 ② 感染症を予防するために、手洗いうがい、規則正しい生活など免疫力を高める行動がとれるように指導するとともに、学校生活全般において健康観察を実施する。 ③ 健全な食生活を実践できる能力を育成するため、授業や給食指導において、バランスの良い食事、食事のマナー、朝食の重要性について指導し、向上を図る。また地域学校園で「食育ファイル」や「お弁当の日」「マナー週間」など共通の取組を実施して連携を図り、実践に向けて意欲を高める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>91.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>92.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>89.3%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率は、いずれも指標を上回っている。保健委員会のお昼の放送も含めた衛生啓発活動が効果的であったと考えられる。 【次年度の方針】 ・保健委員会の活動は引き続き行う。 ・全児童が健康や安全について意識し、廊下の歩行の仕方や給食前の手洗い、ハンカチの携帯等の基本的生活習慣を身に付けられるように繰り返し指導する。	児童の肯定的回答率	91.0%	教職員の肯定的回答率	92.3%	保護者の肯定的回答率	89.3%
児童の肯定的回答率	91.0%									
教職員の肯定的回答率	92.3%									
保護者の肯定的回答率	89.3%									
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、自分のよさを生かしたり、友達と協力したりして、生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 ・児童 9 0 %以上	① 毎日、帰りの会や「きらりコーナー」で、児童が互いに認め合う場を設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 授業や学校行事、体験活動の振り返りを重視し、児童が発揮したよさや頑張りを自覚できるような自己評価、相互評価を工夫する。 ③ QーUや教育相談を生かして、児童理解を深めたり、見取ったよさを家庭に伝えるよう努めたりして、学校と家庭が歩調を合わせながら、児童の自己有用感を高められるようにする。 ④ キャリアパスポートの保護者の欄や、食育ファイルにつづるお弁当の日の振り返り、家読の振り返りの保護者からコメントでは、児童のよさを認める文章を児童向けに書いてもらうことで、さらに自信がもてる児童を育てる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.7%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は、指標を1.3ポイント下回ったが、昨年度の結果より1.5ポイント上回っている。学習や体験的活動での振り返りの重視により、改善傾向が図られてきている。 【次年度の方針】 ・「きらりコーナー」を充実させたり、日常の授業等で児童が互いに認め合う場を増やしたりして、児童が自分の良さに気付く機会の拡充に努める。 ・教職員は、学校生活の様々な場面において、児童を認め励ます機会を意識的に設けるよう努める。担任以外の教職員も日々の様子に記録し、積極的に関わり、認め励ますようにする。 ・学級での係活動や委員会活動、学年・学校行事等の実施課程において、個々の児童が活躍できる場を設定し、それぞれの児童が全体の活動に貢献しているという実感をもたせるよう努める。	児童の肯定的回答率	88.7%				
児童の肯定的回答率	88.7%									
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業やA L Tとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒児 童 9 0 %以上 ⇒教職員 9 5 %以上	① A L Tと担任とのT Tで、効果的な外国語活動の展開を図る。 ② 外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めたり、昼休みにA L Tと英語での対話を楽しむ時間を設けたりして、英語でのコミュニケーションに親しもうとする態度を育成する。 ③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>85.1%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は100%で指標を5ポイント上回った。児童の肯定的回答率は指標を下回ったが、市全体と比較すると2.0ポイントほど高くなっている。 【次年度の方針】 ・授業中にコミュニケーションをとっているが、自信のない児童が多いと思われるので、昼休みのA L Tとの英会話タイムを活用するよう勧めていく。	児童の肯定的回答率	85.1%	教職員の肯定的回答率	100.0%		
児童の肯定的回答率	85.1%									
教職員の肯定的回答率	100.0%									

	A 7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っ ている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上	① 生活科、社会科、道徳、総合的な 学習の時間（宇都宮学）の授業や、 市内や地域での校外学習等におい て、学習内容に関連させながら児 童が身近な地域や宇都宮市のよさ に気付く指導に努める。 ② 出前授業等を活用して宇都宮市 の歴史、文化、伝統産業、特産物等 について理解を深めるとともに、教 師自身も宇都宮のよさを学び、児童 に伝えるよう努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>87.2 %</td></tr></table> ・肯定的回答率は、指標を上回った。市 全体と比較してもやや上回っている。 【次年度の方針】 ・①②の取組を今後も続けるとともに、 日頃から具体的に宇都宮のよさについ て、児童に伝えるようにする。家庭でも、 身近な宇都宮の施設等に触れる機会を 設けるよう働き掛ける。	児童の肯定的回答率	87.2 %		
児童の肯定的回答率	87.2 %						
2ー（2） 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図 書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 9 0 %以上 ⇒教職員 9 5 %以上	① 積極的にデジタル機器を活用す る時間を設け、児童がコンピュータ や情報通信ネットワークなどの情 報手段に親しむとともに、情報モラ ルの充実を図り、児童の情報活用能 力の育成に努める。 ② 各学年のその時期の授業内容と の関連に配慮した教育図書の整備 充実等、学校図書館の環境整備に努 める。 ③ デジタル機器や図書資料を用い て課題を解決したり、まとめたりす る喜びを味わわせる。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.9%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を下回っ ている。デジタル教材や図書等を学習に 活用していることについて、教員の認識 と児童の認識の違いが見られることが 原因だと考えられる。 【次年度の方針】 ・教員の認識と児童の認識の違いにつ いては、1人1台端末や図書等を学習に 活用する場面を増やすなど、授業改善を 行う。	児童の肯定的回答率	86.9%	教職員の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	86.9%						
教職員の肯定的回答率	100.0%						
2ー（3） 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、「持続可能な社会」 について、関心をもってい る。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上 ⇒教職員 8 0 %以上	① 社会科や総合的な学習の時間 における環境教育やみやエコスク ール等を通して、SDGSや環境問題 への関心を高め、児童一人一人の環 境に対する関心や理解を深め、環境 を大切に作る行動が取れるように する。 ・わたしたちのくらしと環境（5年） ② 紙のリサイクル・節水・節電を訴 えるポスター作成及び掲示を環境 委員会の活動ですすめる。 ③ 持続可能な食を支える食育の推 進として食品ロスや地産地消の取 組、伝統的な食文化の継承について 啓発していく。 ④ 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育（特に 生命尊重）を計画的に実施する。	A 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>84.5%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>76.9%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標をやや下 回っている。SDGSや環境問題への関 心や理解が不足していることが原因だ と考えられる。 ・教職員の肯定的回答率も指標を下回 った。資源に対する教職員の意識が低い ことが原因だと考えられる。 【次年度の方針】 ・環境委員会を中心にSDGSや環境 問題への関心を高められるポスター作 製及び掲示を行う。 ・社会科や総合的な学習の時間を中心 に教師が声掛けを行う。	児童の肯定的回答率	84.5%	教職員の肯定的回答率	76.9%
児童の肯定的回答率	84.5%						
教職員の肯定的回答率	76.9%						
3ー（1） インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童の実態に応じ て、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 1 0 0 %以上	① 年3回、要配慮児童の情報交換会 を開き、配慮が必要な児童について 全職員で共通理解を図り、かがやき ルーム指導員や言語障害通級指導 教室指導員等の校内資源を活用し、 全校体制で支援していく。 ② 個別の支援計画を策定し、一人一 人のニーズを正確に把握し、一貫し た適切な支援を行う。 ③ 特別支援学級においては、支援員 と協同して効果的なTT指導を実 施し、一人一人により丁寧で細やか な指導を行う。 ④ 必要に応じて対象児童に関わり のある教職員でケース会議を開き、 情報を共有し、支援方法を検討す る。 ⑤ SCMのコーディネートにより、 SCが専門的観点から、本人や保護 者に支援を行うとともに、担任へも 効果的な助言ができるようにする。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・指標と同等の肯定的回答が得られた。 児童一人ひとりのニーズに合った支援 や学びの場の提供ができたためと思わ れる。 【次年度の方針】 ・個別の支援計画を策定することで、実 態を把握して適切な支援を行えるよう にするとともに、「成長を確かめるため の評価」や「支援内容の振り返り」を 活用して次年度に引き継ぎ、継続した支援 を実現していく。 ・必要に応じてケース会議を開き、一人 ひとりのニーズを把握し、共通理解を 図るとともに、具体的な支援方法や役割分 担を明確にし、場合によっては学びの場 の検討を行い、適切な学習環境でニーズ に応じた支援が実践できるよう努める。	教職員の肯定的回答率	100.0%		
教職員の肯定的回答率	100.0%						

3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児 童 100%以上	① 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていこうという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校生活アンケート」を5月・9月・12月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年だより等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。 ④ 学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」のコーナーで教育活動の様子を発信する。 ⑤ いじめ防止に関する道徳の授業を全学級で行い、懇談会で説明する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は、指標を3.0ポイント下回った。いじめは絶対にしてはいけないということを行事や道徳などをはじめとする学校生活の中で児童に伝え続けていくことが大切である。 【次年度の方針】 ・教職員が「いじめは絶対にダメ」という姿勢を常にもち、折を見て言葉にして指導する。また、人権週間やいじめゼロ月間の取組やいじめアンケートによる実態把握などにより、いじめを未然に防ぎ、いじめは許されない行為であるという意識をしっかりと定着させる。 ・学年だよりへの「にっこり広場」の掲載や公開授業時に道徳の授業実践をすることで保護者・地域への発信も継続して推進していく。	児童の肯定的回答率	97.0%			
	児童の肯定的回答率	97.0%							
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児 童 100%以上 ⇒保護者 95%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、欠席状況共有シートを活用したり、児童指導情報交換会・学年会・ブロック会で情報を交換したりする。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども家庭課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの会での「今日のきらり」を設け、友達のよさを認め合えるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>94.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>85.3%</td></tr></table> ・児童・保護者の肯定的回答率は指標を5.1, 9.7ポイント下回った。不登校児童の情報共有は図られているものの、改善される児童があまり見られないことや更なる不登校傾向児童の増加が影響しているのではないかとと思われる。 【次年度の方針】 ・「きらりコーナー」や帰りの会での「今日のきらり」以外にも、日々の授業や係活動、特別活動の中でも児童相互に認め合う場を増やしていく。 ・一人一人の様子を細やかに見取り、認め励ます指導に努め、児童が自分のよさに気付くような支援を行い、自己肯定感を高めたい。 ・関係機関と連携し、不登校傾向の児童や保護者の困り感に寄り添い、小まめに関わりをもちながら根気強く支援を継続し、登校状況の改善に努めたい。	児童の肯定的回答率	94.9%	保護者の肯定的回答率	85.3%			
児童の肯定的回答率	94.9%								
保護者の肯定的回答率	85.3%								
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るいきいきとした雰囲気である。	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>82.7%</td></tr></table>	児童の肯定的回答率	97.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	82.7%
児童の肯定的回答率	97.0%								
教職員の肯定的回答率	100.0%								
保護者の肯定的回答率	82.7%								

3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいきて学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上	の実態を把握し、問題の早期発見に努める。また、問題があるときは学年間または学校全体で連携を図りながら、すぐに対策を講じる。 ② 授業や学校生活の様々な場面を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ③ 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、異学年交流を活発に行い、児童が活躍する場を広げる。 ④ 学級・学校での取組をホームページや便り等で積極的に保護者に向けて発信していく。	B	・児童、教職員の肯定的回答率は指標を大きく上回っており、各取組の成果が出ていると考えられる。しかし、保護者は、昨年度より6.0ポイント下がり、指標も大きく下回っている。 【次年度の方針】 ・引き続き、日常の様子や各種アンケートを参考に児童の実態把握に努め、問題発生時には学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。全体での情報交換も継続して行い、連携して対応できるようにしていく。 ・保護者との連絡も密に行うとともに、懇談会やオープンスクール、学年だより等で子供たちのよさを発信していく。				
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上 ※R4年度のA18と同じ	① 十分な教材研究のもと、本時のめあてを明確にするとともに、児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童の育成を図る。 ③ 学力向上担当との連携を図った習熟度別学習やコース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、児童の理解が深められるようにする。 ④ 計画的・構造的な板書を工夫し、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに振り返りの場面で活用できるようにする。 ⑤ 「聞き方・話し方のきまり」を掲示し意識づけを図るとともに、それらを活用し、伝え合う力の育成を図る。 ⑥ 一人一台端末を活用し、効果的に教科指導に役立てるとともに、学習の履歴が振り返れるようにする。 ⑦ 児童が授業に取り組む様子を、ホームページ等で保護者に発信する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.7%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>85.6%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回った。保護者の肯定的回答率は指標を下回ったが、市全体と比較するとやや上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、①～⑥の取組を続けるとともに、保護者に対しては、引き続きホームページ等で授業の様子を発信する。児童に対しては、配慮の必要な児童が増えている現状を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点を意識しながら、授業づくりを行っていく。	児童の肯定的回答率	96.7%	保護者の肯定的回答率	85.6%
児童の肯定的回答率	96.7%							
保護者の肯定的回答率	85.6%							
4- (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら組織的に取り組むよう努める。 ② 校内評価等をもとに、円滑な学校運営が行われるよう校務分掌の業務の見直しを図るとともに、役割を分担し、協力して業務に取り組めるよう努める。 ③ 各々の教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、全教職員が互いに助け合い支え合う協働の意識をもって業務に取り組む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>92.3%</td></tr></table> ・肯定的回答率が指標を上回っているが、昨年度と比較すると4.1ポイント下がっている。 【次年度の方針】 ・引き続き、互いに助け合いながら組織的に業務に取り組んでいくとともに、それぞれの得意分野が生かされたり、協働意識が高まったりするような編成や運営を進めていく。また、校務分掌の役割等を明確にし、効率的に業務を行えるようにする。	教職員の肯定的回答率	92.3%		
教職員の肯定的回答率	92.3%							

4-（3） 学校における働き方改革の推進	A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。	① 学校の働き方改革を念頭に、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、各種行事等スリム化を図る。 ③ 学習情報システムやＩＣＴを効果的に活用し、業務の効率化を図る。 ④ 学習指導に関して、教材等のデータを蓄積し、共有して活用できるようにしていくことで、さらに効率化を図る。	B	【達成状況】
	【数値指標】全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 ８５％以上			教職員の肯定的回答率 96.2% ・肯定的回答率が昨年度より 17.6 ポイント上がり、指標を大きく上回っている。ICT の活用などで、業務の細かい改善の積み重ねの成果と考える。 【次年度の方針】 ・今年度の方針を引き継ぐとともに、日常の業務を常に意識し、効果的、効率的に行えるものはその都度改善できるように努力していく。
5-（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。	① 小中一貫教育のカリキュラムを充実させる。（９年間を見通した年間指導計画の作成・見直し） ② 小中乗り入れ授業を実施し地域学校園の小中の交流を促進する。 ③ 「あいさつ運動」や「ひまわりプロジェクト」など地域学校園での取組について各小学校の児童会と陽南中学生徒会がオンラインで話し合うなど交流を図り、活動の充実を目指す。 ④ 宮つ子チャレンジ（宮チャレ）の活動を通して、小中学生の交流を図る。 ⑤ 各取組の内容や趣旨を児童に説明するとともに、保護者にもさくら連絡網で周知することで、地域学校園全体として行っているということを共通理解できるようにする。また、取組の様子や成果などについて、ホームページや校内の掲示等を活用して、積極的に発信していく。	B	【達成状況】
5-（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８０％以上 ⇒教職員 ８０％以上 ⇒保護者 ８０％以上			児童の肯定的回答率 87.0% 教職員の肯定的回答率 96.2% 保護者の肯定的回答率 74.4% ・児童と教職員の肯定的回答率は指標を上回ったが、保護者は指標を下回っている。特に教職員は昨年度より 6.9 ポイント上がっており、学校全体を巻き込みでの取組が浸透した結果だと考える。 【次年度の方針】 ・今年度同様に、全校を巻き込みながら活動を行い、児童への浸透を図る。 ・保護者への情報発信を積極的に行い、小中一貫の取組を周知できるように努力する。
	A 18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	① ＰＴＡによる水曜日夜校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が登下校指導を実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会の組織を有効活用し、地域学校協働活動推進員を中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・高齢者・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。 ④ さらに充実した教育活動の実施を目指し、地域の人材や物的教材などの開発に努める。 ⑤ 企業等の出前授業など、外部講師を積極的に活用することで、学習や体験的な活動の充実を図る。また、保護者にも公開し、外部と連携した取組の意義の共通理解を図る。	B	【達成状況】
【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 ９０％以上 ⇒教職員 ９０％以上 ⇒保護者 ９０％以上 ⇒地域住民 ９０％以上	児童の肯定的回答率 91.0% 教職員の肯定的回答率 96.2% 保護者の肯定的回答率 91.6% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・全ての対象者において、肯定的回答率が指標を上回っている。PTA やボランティアとの連携や、複数回のオープンスクールでの学校公開等の効果が出たのではないかと。また、出前授業をオープンスクール等に合わせて保護者にも公開した効果もあるのではないかと、考える。 【次年度の方針】 ・来年度もオープンスクール等で学校公開を充実させていくとともに、PTA、地域の方のボランティアの活用を考え、さらなる充実を図る。 ・企業との連携を積極的に行い、保護者への公開や情報発信も引き続き充実させていく。			

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 90%以上	① 管理職による施設・設備の常時点検と、月1回のチェック項目に基づく全職員での安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努めるとともに、教職員や児童に周知し、万全を図る。 ② 危機管理マニュアルを見直すとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理および環境衛生管理に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% 保護者の肯定的回答率 84.0% ・教職員の肯定的回答率が指標を上回った。月1回の安全点検を行っていることと、修繕箇所は学校業務員が迅速に対応していることが要因だと考えられる。 ・保護者の肯定的回答率は指標を下回った。学校が安全に配慮した環境づくりに努めていることについて、保護者への周知不足が原因であると考えられる。 【次年度の方針】 ・施設・設備の定期点検と、月1回の安全点検を実施するとともに、危険箇所は早期に修繕するなど、安全な環境づくりに十分配慮していく。また、危険箇所や修理箇所は、教職員や児童に周知し、万全を図る。 ・安全に配慮した環境づくりを行っていることへの保護者への周知を行う。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上	① 児童の学習への関心を高めたり理解を深めたりすることができるよう、授業の中で、1人1台端末等のデジタル機器を効果的に活用するよう努める。 ② クラウドを活用し、効率的に児童の成績を評価することができるようにする。 ③ 児童指導においても、校務支援システム等のデジタル機器を積極的に活用し、日々の記録や指導に生かすことができるようにする。		B
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児童 95%以上 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 90%以上 ⇒地域住民 95%以上	① 全職員が率先してあいさつするとともに、児童会を中心としたあいさつ運動を実施することで、元気なあいさつの意識化、習慣化を図る。 ② 全校生の模範となるあいさつ名人を各学級で認定することにより、児童同士のあいさつへの意識を高める。 ③ 「あいさつをする意味や大切さ」について、学級活動や授業などで継続的に指導し、時と場に応じたあいさつができるようにする。また、学年だより等により家庭への啓発を図る。 ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.3% 教職員の肯定的回答率 92.3% 保護者の肯定的回答率 87.0% 地域住民の肯定的回答率 97.1% ・地域住民の肯定的回答率は2.1ポイント上回ったが、児童・教職員・保護者それぞれの肯定的回答率は3.7ポイント、2.7ポイント、3.0ポイント下回った。あいさつ週間は元気な挨拶をしている児童が多いが、それが継続されていない現状が、達成されない結果につながっていると考えられる。 【次年度の方針】 ・引き続き全教職員による率先垂範やあいさつ運動等を継続し、習慣化を図った上で「相手の方を見る」や「相手に伝わる声で挨拶する」「会釈」など、基本的な挨拶の仕方についても適宜指導していく。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 95%以上 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 95%以上 ⇒地域住民 95%以上	① 学校のきまり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高めるとともに、判断力・実践力の育成を図る。(振り返りは学年に応じて、年3回実施) ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>88.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>95.5%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>98.5%</td></tr></table> ・保護者・地域住民の肯定的回答率は0.5、3.5ポイント上回ったが、児童・教職員の肯定的回答率は6.3、6.5ポイント下回った。学校・家庭・地域の意識の隔たりが大きい。継続した常時指導や生活目標の順守により、規範意識の向上に努めたい。 【次年度の方針】 ・全教職員の共通理解のもと、「陽南のよい子」に基づき同歩調で常時指導を継続していく。また、学校だけでなく家庭でも同様の指導がされるよう、連携したり啓発したりしていく。 ・児童の実態から生活目標を設定するなどして、規範意識の薄い内容をしっかりと指導できるようにしていく。 ・休み時間等に校内外の巡視を行い、児童に声掛けをしていく。	児童の肯定的回答率	88.7%	教職員の肯定的回答率	88.5%	保護者の肯定的回答率	95.5%	地域住民の肯定的回答率	98.5%
児童の肯定的回答率	88.7%										
教職員の肯定的回答率	88.5%										
保護者の肯定的回答率	95.5%										
地域住民の肯定的回答率	98.5%										
	B3 児童は、コミュニケーションをとることで生活をより良くしようとしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 学級活動の話し合い活動を通して、自分たちの学級生活がより良いものになるよう進んで意見を交換し、より良い学級を共に創っていこうとする気持ちや態度を育てる。 ② 縦割り班清掃やにっこり班活動の中での話し合いを重視し、友達の意見を聞いたり互いに意見を出し合ったりしてよりよい活動にしていこうとする態度を育てる。 ③ 毎日の学習や生活の中で、分からないことを友達や教員に聞いたり、自分の考えを友達や教員に提案したりすることが進んで出来るような環境の醸成に努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>94.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>92.4%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率は、4.3、10.0、2.4ポイントと全て指標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、①②③の取組を続け、様々な場面で、自分の意見を話したり、相手の考えを感じ取りながら話を聞いたりすることが、生活をよりよくする大切な活動だということを強く意識させていきたい。そして、話す力や聞く力がさらに高まるように、発達段階や個に応じて、具体的な取組をしていきたい。	児童の肯定的回答率	94.3%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	92.4%		
児童の肯定的回答率	94.3%										
教職員の肯定的回答率	100.0%										
保護者の肯定的回答率	92.4%										
	B4 児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、家庭学習の定着を図る。また、課題の内容を工夫し、多様な学習への取組ができるよう支援する。 ② 自主学習ノートの展示コーナー等を設け、個々の頑張りを褒め励ますとともに、よさを広めていく。 ③ 一人一台端末を利用した家庭学習を取り入れる。 ④ 懇談会や学年だより等で、家庭学習への取組について、保護者に啓発していく。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>92.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>76.0%</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は指標を上回ったが、保護者は下回った。また、いずれも昨年度よりポイントが下がっている。 【次年度の方針】 ・引き続き、①②③の取組を続けていく。自主学習への取組などについて、地域学校園でも情報交換をしながら児童や保護者に啓発していく。	児童の肯定的回答率	86.6%	教職員の肯定的回答率	92.3%	保護者の肯定的回答率	76.0%		
児童の肯定的回答率	86.6%										
教職員の肯定的回答率	92.3%										
保護者の肯定的回答率	76.0%										

	B5 児童は、積極的に本とふれ合い、読書の楽しさを味わうとともに、豊かな心を培っている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、学校や家で積極的に読書に親しんでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 75%以上	① 週2回朝の読書の時間を日課表に位置付け、図書館の開館も行う。 ② 多くの本と出会い、読書の楽しさを味わわせるために、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ③ 多読表彰や必読書の奨励、図書コーナーの充実（図書館だより、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ④ 国語科における並行読書や全教科の調べ学習に対応できるよう、司書と学級担任とが連携しながら必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ⑤ 読書の大切さを保護者に伝えたり、習慣化を促すため「家読」を呼び掛けたりする。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>70.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>88.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>61.6%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者ともに肯定的回答率が指標を下回った。 【次年度の方針】 ・本校の読書に関する①～⑤の取組を継続していく。 ・特に指標を下回っている保護者の肯定的回答率が向上するように、図書館だよりや学級懇談会などを通して、児童の読書活動の様子や読書週間の行事、各学年に薦めたい本などについて発信していく。また、市立図書館の利用なども促し、家庭での読書環境の改善を図っていく。	児童の肯定的回答率	70.7%	教職員の肯定的回答率	88.5%	保護者の肯定的回答率	61.6%
児童の肯定的回答率	70.7%								
教職員の肯定的回答率	88.5%								
保護者の肯定的回答率	61.6%								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・多くの項目において、数値指標を達成することができた。市全体との比較では、市の平均を上回っている項目も下回っている項目もあり、全体的に同程度であった。
- ・児童・教職員・保護者・地域住民それぞれの回答において、多くの項目で肯定的回答率が9割以上の高い数値を示している。特に地域住民の肯定的回答割合は、すべての項目で9割以上となった。
- ・「児童は宇都宮の良さを知っている」「児童は時と場に応じたあいさつをしている」など児童に関する項目について、教職員の評価が昨年度より大きく向上した。また、「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」についても、教職員の評価が昨年度より大きく向上した。地道な取組により一定の成果が見られるので、今後も業務を精選することで教育活動の充実を図り、児童のよさを認め励まし褒めながら指導を継続していく。
- 「小中一貫教育」については、「あいさつ運動」を小・中学生合同で実施したり、Google クラスルームを活用した「ひまわりネット」で小・中学生によるオンライン会議を実施したりと、活発に活動していた。しかし、児童・保護者の肯定的回答率は市の平均より低かったため、次年度はより積極的な情報発信に努め、活動の周知を図る必要がある。
- 「地域学校園の取組」については、「家庭・地域・企業等との連携・協力」に関する項目において、保護者・地域住民の評価が昨年度より向上し、市の平均を上回った。今後はさらに家庭や地域・企業と連携しながら取組を継続し、充実させていきたい。

7 学校関係者評価

- ・地域の方々は遠慮があり、学校の中に踏み込めないかもしれない。できる範囲で地域の参加型の行事を進めてほしい。学校だよりにある写真が児童の姿だけでなく、地域の方々が一緒に写るような行事をお願いしたい。
- ・姿川中からの乗り入れや情報が少ない。少人数ではあるが通学児童がいるので何かしらの対応が取れないだろうか。
- ・不登校を生まないよりも、不登校になっても対応できる学校運営を心掛けてほしい。
- ・一人一人の自己肯定感を上げる教育を進めることで、いじめが少なくなると思う。
- ・学校 HP を見たら地域協議会フォルダがあった。最近の活動状況を HP に載せるとよいと思う。
- ・「宇都宮の良さを知っているか」の問いに対して学校として取組はどうだろうか。
- ・てくてくウォークは地元の歴史や様子が知れてよい行事である。今後も続けてほしい。
- ・陽南地域はとても協力的な方が多い。教育活動に保護者がもう少し参加協力してもらえると指標が上がると思う。
- ・成人の引きこもりは幼少期にいじめを受けている場合が多く、対応が難しい。学校の中で仲良くできなくても、言葉に注意する指導を増やしてほしい。
- ・宿題は回収し添削する手間はあがるが、少しでも良いから出し続けてほしい。
- ・保護者の評価が低い項目が気になる。保護者の理解を得る工夫をすることで、児童の姿も変わると思われる。
- ・多くの児童が「学校は楽しい。」という気持ちで登校できる環境作りをするとうい。
- ・あいさつについては、高学年児童ができるのと低学年児童もできるようになる。児童から発する場面も多くなっている。

- ・あいさつについての呼びかけは徹底されているが、更に家庭・地域社会が共に進めていくことで定着がされると思う。
- ・あいさつ運動を周知する陽南学校園のフラッグを掲げる等の取組を参考に、地域へのアピールになるよう人目につくものを掲示するとよい。
- ・放課後子どもクラブの活動で、児童は個性を出し自信をもって取り組んでいる。児童同士のつながりも強く、仲間をかばいあう態度が見られた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今後も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色や取組などについて積極的に発信しながら、開かれた学校づくり・地域とともにある学校づくりに努める。今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童の育成」の目標を継続し、以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら主体的に取り組んでいく。（★は特に重要課題として取り組む）

《確かな学力を育む学校》

- | | |
|-------------|--|
| ★学び合いの向上 | 多様な学び合いの場の設定
聞き手を意識した表現力の向上 |
| ・教師の授業力の向上 | 「楽しく・分かる・できる授業づくり」の実践
研修による資質・能力の向上 1人1台端末の効果的な活用 |
| ・基本的学習習慣の定着 | 「陽南授業・生活のきまり」の徹底 |
| ・家庭学習の習慣化 | 家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化 |

《豊かな心を育む学校》

- | | |
|-----------------|---|
| ★基本的生活習慣の定着 | 教職員の統一步調のもと「陽南授業・生活のきまり」の徹底 教師の率先垂範
家庭・地域と連携したあいさつ運動、代表委員会によるあいさつ運動の推進 |
| ★規範意識の醸成 | きまりやマナーを守る意義の理解 省エネやごみ削減等 SDGs を意識した活動の充実 |
| ・読書習慣の定着 | 読書指導の充実（読書週間、読書集会等）、市図書館と連携した多様な図書の準備
読み聞かせの継続（ボランティア・教師）、家庭の協力を得た家読の推進 |
| ○コミュニケーション能力の育成 | 縦割り班を主体とした異学年交流の充実（清掃活動、おおぞらタイムの遊び等）
思いやり・助け合いの心を養う道德教育の充実 居がい感のある学級づくり |
| ・人権意識の向上 | 人権週間・いじめゼロ集会の工夫 教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応
教育相談の充実「きらりコーナー」等を活用した自己肯定感・自己有用感の向上
丁寧な言葉遣い指導の推進 |

《健康な身体を育み安全な学校》

- | | |
|------------------|--|
| ・健康・体力の向上 | うつのみや元気っ子プロジェクトに基づく運動の推進 休み時間の運動促進 |
| ・望ましい生活習慣・食習慣の定着 | 自己の心身を大切に、健康的な生活習慣の定着を図る支援の充実
食に関する指導の推進、家庭との連携（給食だより、お弁当の日振り返りカードの活用）
栄養士による個別面談の充実（アレルギー対応等） |
| ・安全に行動できる能力育成 | 警察や消防署、学校薬剤師と連携した授業の充実
（避難訓練、交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室、喫煙防止教育、薬育教育、自転車免許講習、SNSやスマホ・携帯電話についての講座など） |